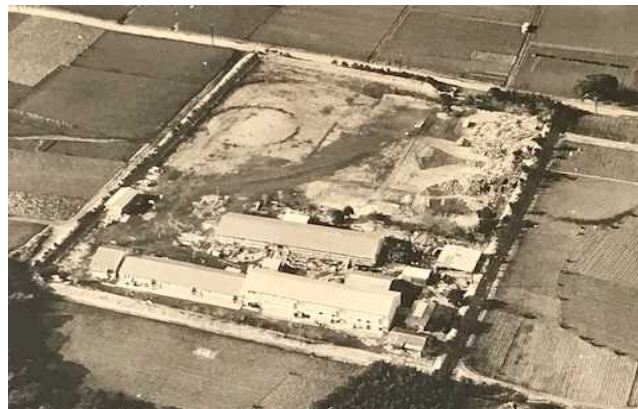


校長閑話

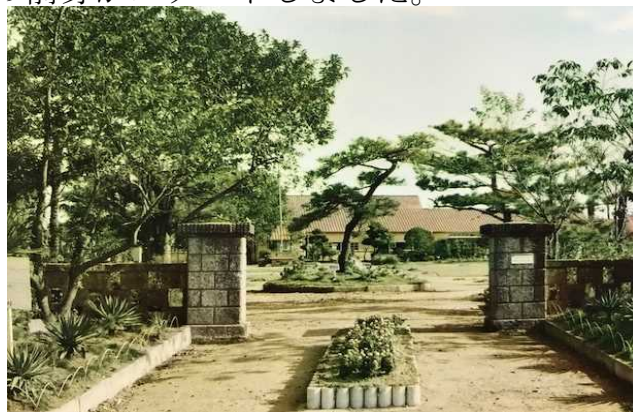
行政レベルでは統廃合に向けての準備が着々と進んでいます。銚子第七中学校の名がなくなってしまうのは本当に寂しい限りですが五中や六中も3年後には新たな中学校名としてスタートすることから寂しさは同様です。

さて、閉校まで本日7月6日で残り1,000日となりました。それまでの間、しばらくは学校だよりを通して本校の歴史を紹介していこうと思います。

昭和23年5月10日に開校し、その年の5月22日に現在の地で校舎落成の式を挙行しています。戦後間もない頃なので、建築資材も思うように手に入らなかったようです。校舎は元海軍電測学校の校舎を改築したものでした。その後、昭和30年2月11日に銚子市立豊里中学校として七中の前身がスタートしました。



(昭和33年当時の正門付近)



(昭和40年当時の学校全景)

また昭和34年には現在の名称である銚子市立第七中学校と改称。その時に校章（上記右上）も制定されたようです。

その校章は2羽の鳩がオリーブの枝を加え、学校名が中心に置かれたものとなっています。しかし、なぜそのデザインに落ち着いたのかは諸説あるようですが、オリーブの花言葉の「平和」と「知恵」ということから引用し、「①永久に平和な世の中が続くこと」「②知恵を身に着けて磨く場としての学校」という意味を校章に託したようです。（つづく）

6月を振り返って

6月はワールドカップの熱戦に影響を受けたのか、梅雨も何と6月の内に終了してしまいました。熱い？暑い毎日がさらに続きます。

さて、6月は1学年の校外学習（5日）が行われました。当日は天候に恵まれ、全員で銚子駅から犬吠埼灯台まで班別行動で目指しました。改めて多くの「ふるさと発見」をすることができました。来年の東京方面校外学習へと繋がる実りある活動になりました。また、2学年はAED講習会（6日）が行われました。小学校以来2度目の体験でした。終了後はどの生徒からも「命の大切さ」という言葉が聞かれ、いつでも救命に貢献できるようにしたいという心構えもしっかりと得ることができました。

そして3学年は総体やコンクールに向けて一層力の入った部活動練習だったようです。学級では互いに励ましあう言葉掛けがあり、修学旅行で強固になった学級の団結は一層高まったようです。

いよいよ、夏休みが目前に迫りました。今年は例年以上に暑い夏になりそうです。1学期のラストスパート。健康に留意し残りの日々を過ごしたいものです。

